

2022 年度

学習成果及び学習行動、環境に関する調査（2022 年度在学生）

アンケート調査報告

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学の学生の学習前後の学習成果を把握し、本学の3つのポリシーを検証する材料とすることを目的として、本年度より「学習成果および学習行動、環境に関する調査」を実施した。従来、学生の学習状況の実態は、「学生生活実態調査」（隔年実施、直近の報告は2021年度※1）が役割を担っていたが、より3つのポリシー及び教学分野に特化した検証を行うために質問項目を精緻化した。また、年次毎の推移を検証していくため、毎年実施するとともに記名式とした。

1. 実施方法

1-1 実施対象と方法

2022 年度の在学している学部生（以下、在学生）は合計 4,152 名であった。

メールにて回答依頼を学生に対して行い、回答は Webclass を使用して、オンラインにて実施した。質問項目および簡易集計結果は巻末の資料1の通りである。

1-2 実施日

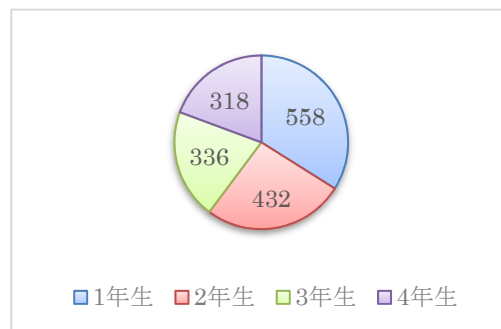
提出期限：2022 年 8 月 3 日（水）～8 月 20 日（土）

2. 実施結果

2-1 回収率

アンケートの回収率（回収数／配付数）は 39.6%（1,644 件）であった。回答者の学年構成は以下の通り。

学年	回答者数	構成比
1年生	558	34%
2年生	432	26%
3年生	336	20%
4年生	318	19%
合計	1644	



2-2 学生の主観評価によるアドミッション・ポリシーの検証（質問1）

アドミッション・ポリシーは入学時においては、本学への入学選抜に臨むにあたっての人物像を、入学後については、本学での学びに対する基本姿勢として持つ必要があるものであり、いずれの設問においてレベル4もしくは5であることが望まれる項目である。実際の回答もレベル4と5での回答を占めているが、ごく少数の学生は低いレベルで回答している。アドミッション・ポリシーに関する設問に全てレベル1で回答した学生が数名存在し、これら学生のGPAを確認すると、1.9前後となっており、医療福祉人としての将来への不安や就学意欲の低下が懸念された。

アドミッション・ポリシーのうち、「他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人」については、レベルを4と回答した学生が最も多くなっており、他のアドミッション・ポリシーと回答分布が異なった。2022年度より基礎教育必修科目である「医療福祉学概論」に多職種連携に関するグループワークの導入が予定されており、来年以降の調査で改善が期待される。

学年別の傾向を別表1に示す。1年生は他の学年より高いレベルを回答した学生が多いが、その他学年による傾向の差は見受けられない。

2-3 学生の主観評価によるカリキュラム・ポリシーの検証（質問2、3、5）

自分の所属学科のカリキュラム（科目や科目の配置、科目の量）への満足度を確認したところ、満足が37%、やや満足が44%と合せて81%であり、概ね満足している状況が確認された。カリキュラムへの要望事項は、資格対策の充実と、ボランティア活動などの授業によらない課外活動への単位認定への要望が多く見受けられた。

科目の配置については、1週間当たり21～30時間（1日当たり概ね3～4コマ）の授業がある学生が40%と最も多くなっており、これは令和元年度に文部科学省が実施した「全国学生調査（試行実施）」※2において、最多回答であった「1週間当たり11～15時間（1日当たり概ね1～2コマ）」と比較すると、全国の大学平均よりも多くの科目が配置されていることが示唆された。

2-4 学生の主観評価によるディプロマ・ポリシーの検証（質問4、5、6、7、8）

授業に対して臨む態度を問うた質問4（複数選択式）では、最も高かった項目が「4. 出された課題やレポートを、良いものに仕上げようと努力している」が59%となっており、「2021年度学生生活実態調査※1」と同傾向であると同時に、56.7%→59%とわずかながら増加している。その他項目では、「受講の際に、前もってシラバスを確認している」が13.7%→34%、「授業でわからなかったことは、自分で調べてみる」の項目が30.9%→42%と大きく増加しており、学生が主体的に学ぶ姿勢が順調に醸成されていることが示唆された。一方、「予習をしたうえで毎回の授業に臨んでいる」は2.1%→6%と、増加はしているものの、全体割合からすれば微増であり、後述の質問6と同

様、課題とすべきであろう。

質問 6 では授業以外での自己学習時間を問うた質問であるが、時間数としては最も少ない選択肢である 1 週間当たり 1~5 時間の学生が 34%と最多となった。本学の「2021 年度学生生活実態調査※1」においても同様の傾向であり、改善しているとは言い難い状況である。「全国学生調査（試行実施）」も同様に 1 週間当たり 1~5 時間の学生が 54%と最も多くを占めており、他大学においても同様の課題が存在するものと考えられる。

質問 7 の自身が自由に使用することができる時間を確認する限りは、自己学習時間の確保は可能と考えられ、単位制度の実質化を図る上でも学生の自己学習時間増加に向けた大学内学習環境の整備や、予習・復習教材の指示、提供等の改善に向けた施策が必要である。

質問 8 では、ディプロマ・ポリシーに定められた養成人材像に対する現時点での自身の達成状況について 5 段階で自己評価させた。全てのディプロマ・ポリシーについて、レベル 4 と回答した学生が最も多い状況ではあるが、元来ディプロマ・ポリシーは卒業時に充足を目指すものであり、正しい傾向といえる。

学年別の傾向を別表 1 に示すが、学年による傾向の差は見受けられない。しかし、前述のディプロマ・ポリシーの性質から考えると、3・4 年生でレベル 4 と 5 が増えることが望ましく、到達目標を明示することによって成長実感を持たせるなど、学生の授業満足度向上に向けたアプローチの必要性が示唆された。2022 年度より試験稼働予定のポートフォリオシステムに期待が寄せられる。

2-5 学生の ICT 利用環境の状況（質問 10、11）

学習に使用できる電子機器の所有状況については、回答者のうち、約 90%の学生がノートパソコン（キーボードが付属しているタブレット端末含む）を所有していた。通信回線においても固定回線を整備している学生が 73%と、2020 年度からの遠隔授業を経て通信回線を整備した学生が多いものと推測される。

以上から授業の ICT 化、ペーパーレス化を行うための基盤はほぼ整っているものと判断される。今後は「道具」ではなく「手法」、つまり教員側の教育方法や学生側の学習方法のデジタルトランスフォーメーションが求められる。

【学年別の電子機器の所有率】

電子機器	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	総計
ノートパソコン	94%	91%	86%	86%	90%
デスクトップパソコン	6%	5%	9%	5%	6%
タブレット端末	14%	15%	18%	18%	16%
スマートフォン	84%	83%	80%	75%	81%
上記に該当する機器を所持していない	0.2%	0.5%	0.0%	0.6%	0.3%

【学年別の通信回線保有率】

回線種別	1年生	2年生	3年生	4年生	総計
固定回線	72%	73%	75%	70%	73%
データ容量制限なしのスマートフォン	28%	29%	24%	23%	27%
データ容量制限ありのスマートフォン	39%	32%	38%	39%	37%
上記に該当する機器を所持していない	0.7%	0.5%	0.6%	1.6%	0.8%

2-6 学生からの環境整備への要望事項（質問9、12、13）

質問9では、学生が自習する場所を確認した。自宅での自習を中心としながらも、大学図書館や各階ラウンジなどの大学内施設の利用が多く見受けられた。

その傾向から、質問12および13の自由記述形式での施設整備の要望では、自習のための大学内施設の充実を望む声が多数寄せられた。また、福利厚生施設としての学生ラウンジの充実、カフェスペースの設置、充電スポットの整備などが多く要望として寄せられた。ペーパーレス化に伴う電子デバイスの利用促進にあたり、現在未整備である充電スペースの整備については、優先度が高いものと考えられる。

自由記述の記載では空調に関する要望が35件と多く、多くの学生が不満を持っていることが分かる。教室側で空調が任意にコントロールできない、空調による室温調整が十分ではないなど、本学設備の根幹部分の改修・更新が必要な内容のため、早期の解決は難しいが、学生の不満が最も多い内容であることは認識しておかなくてはならない。

その他の項目ではWi-Fi環境の改善に関する内容が多く寄せられた。いずれもWi-Fi回線の不安定さを指摘する声であり、ネットワーク機器やアクセスポイント、認証方式などの見直しが必要と考えられる。

講義資料のペーパーレス化については、印刷費用のコスト負担を不満としてあげる声が大きく、学生側の学習方法と、教員側の教授方法双方のデジタルトランスフォーメーションを早急に進める必要性を強く感じられる内容である。

3. まとめ

今年度初めて実施した本調査であるが、質問の精緻化、記名式への変更、毎年度実施という形態から、来年度以降も本学の3つのポリシーと教学に関するPDCAサイクルをまわしていくための貴重なデータとなった。特に大学教育の受益者である学生の主観の視点で、3つのポリシーの学生の認識を把握出来た点は、本学の教育活動の改善に大きく寄与するものと考えられる。

既存調査の「2021年度学生生活実態調査※1」と比較できた項目（学習への取り組み態度、自己学習時間）においては、昨年度から改善が見られた項目もあり、シラバスの内容の整理や教員の意識の変化により、教学の改善は順調に進捗しているものと考えられるが、

単位制度の実質化にはまだ不十分と考えられるため、引き続き改善に向けての取り組みが必要である。

※1 2021 年度学生生活実態調査報告書 2022/9/1 参照

https://w.kawasaki-m.ac.jp/visitor/student/pdf/stu-2021_life.pdf

※2 文部科学省 令和元年度「全国学生調査（試行実施）」結果 2022/9/1 参照

https://www.mext.go.jp/content/20200618-mxt_koutou01-000001987_03.xlsx

アドミッション・ポリシー

ポリシー	レベル※	1年生	2年生	3年生	4年生	総計
AP1.医療や福祉の分野で活躍するために、その知識と技術を修得する意欲のある人	1	3	8	3	5	19
	2	7	9	8	12	36
	3	46	50	50	28	174
	4	168	159	109	99	535
	5	334	206	166	174	880
AP2.病気や障がいのある人の気持ちを理解するとともに、その苦悩に共感できる人	1	3	5	1	2	11
	2	4	6	4	3	17
	3	42	59	34	23	158
	4	171	140	122	117	550
	5	338	222	175	173	908
AP3.社会人としての良識や倫理観を身につけ、社会に貢献したいと願っている人	1		4	1	3	8
	2	3	3	6	5	17
	3	30	50	37	11	128
	4	176	152	101	97	526
	5	349	223	191	202	965
AP4.他者の言葉に耳を傾け、適切に説明できるといふコミュニケーション能力を持つために努力する人	1		3	1	1	5
	2	6	6	7	3	22
	3	49	46	40	23	158
	4	193	183	114	114	604
	5	310	194	174	177	855
AP5.他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人	1	2	2	2	4	10
	2	17	22	19	9	67
	3	98	93	77	48	316
	4	228	170	126	137	661
	5	213	145	112	120	590

ディプロマ・ポリシー

ポリシー	レベル※	1年生	2年生	3年生	4年生	総計
DP1.幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。	1	10	8	7	3	28
	2	38	37	31	23	129
	3	180	141	100	78	499
	4	226	177	134	140	677
	5	104	69	64	74	311
DP2.豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。	1	5	2	7	5	19
	2	43	31	25	15	114
	3	165	131	92	75	463
	4	224	198	145	145	712
	5	121	70	67	78	336
DP3.医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。	1	10	4	5	4	23
	2	45	42	35	18	140
	3	187	153	94	93	527
	4	211	162	137	134	644
	5	105	71	65	69	310
DP4.4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。	1	22	7	10	6	45
	2	66	61	42	27	196
	3	187	143	84	82	496
	4	173	151	136	131	591
	5	110	70	64	72	316

※レベル1が最もネガティブで、レベル5が最もポジティブな自己評価を示している。

資料1

令和4年度 学習成果及び学習行動、環境に関する調査_結果

実施期間：2022年8月3日（水）～8月20日（土）

対象者数：4,152人

回答者数：1,644人（1年次558人、2年次432人、3年次336人、4年次318人）

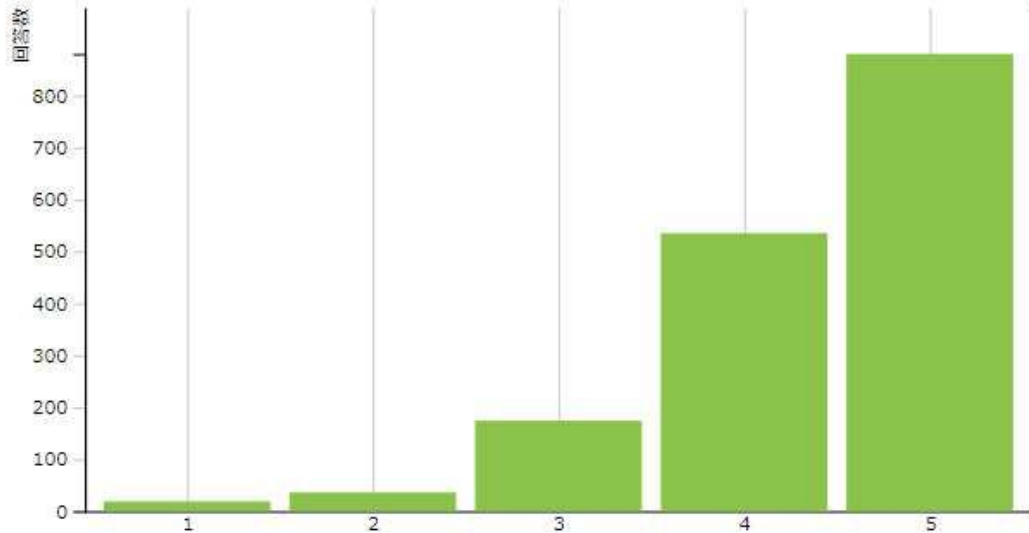
回答率：39.6%

質問1.川崎医療福祉大学では以下の学生を入学者として求めていると同時に、大学が養成しようとしている人材の基本姿勢として定めています（アドミッションポリシー）。あなたの現時点での学びへの姿勢について5段階で自己評価してください。

① 医療や福祉の分野で活躍するために、その知識と技術を修得する意欲のある人

高 意欲がある

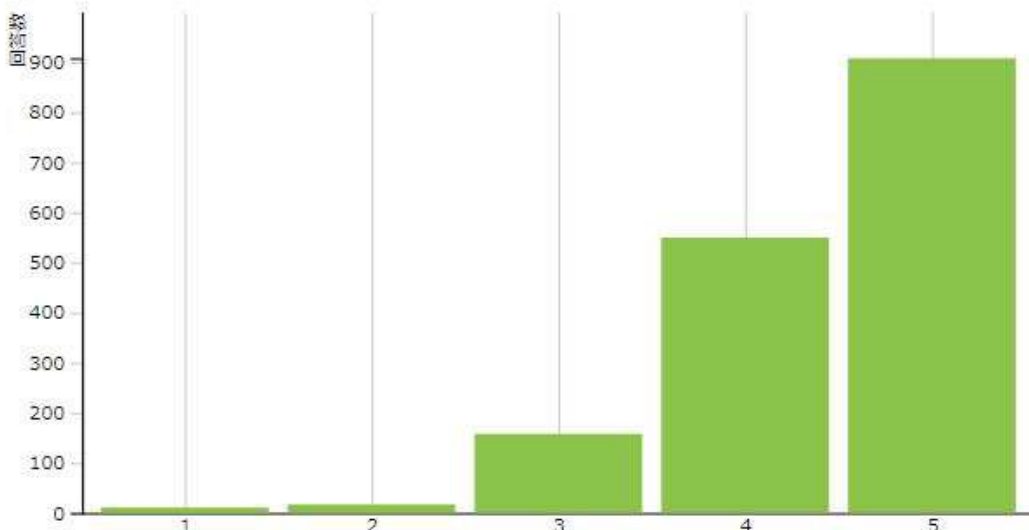
低 意欲がない



② 病気や障がいのある人の気持ちを理解するとともに、その苦悩に共感できる人

高 共感できる

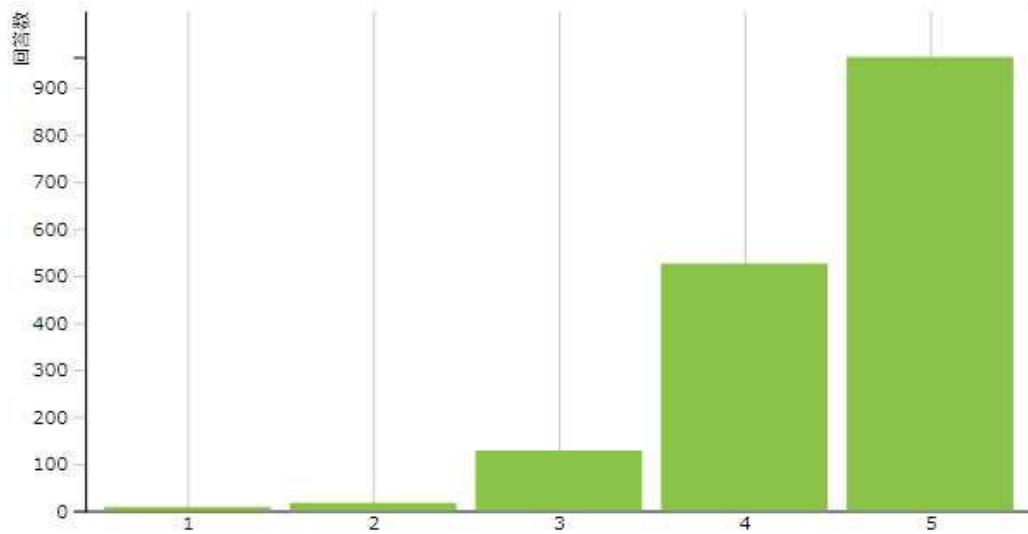
低 共感できない



③ 社会人としての良識や倫理観を身につけ、社会に貢献したいと願っている人

高 貢献したいと思う

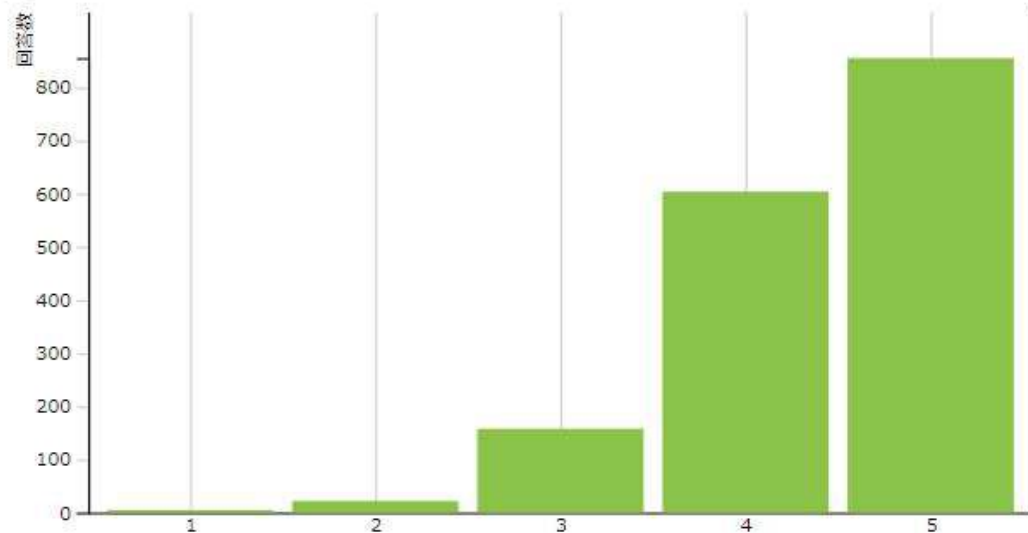
低 貢献したいと思えない



④ 他者の言葉に耳を傾け、適切に説明できるというコミュニケーション能力を持つために努力する人

高 努力している

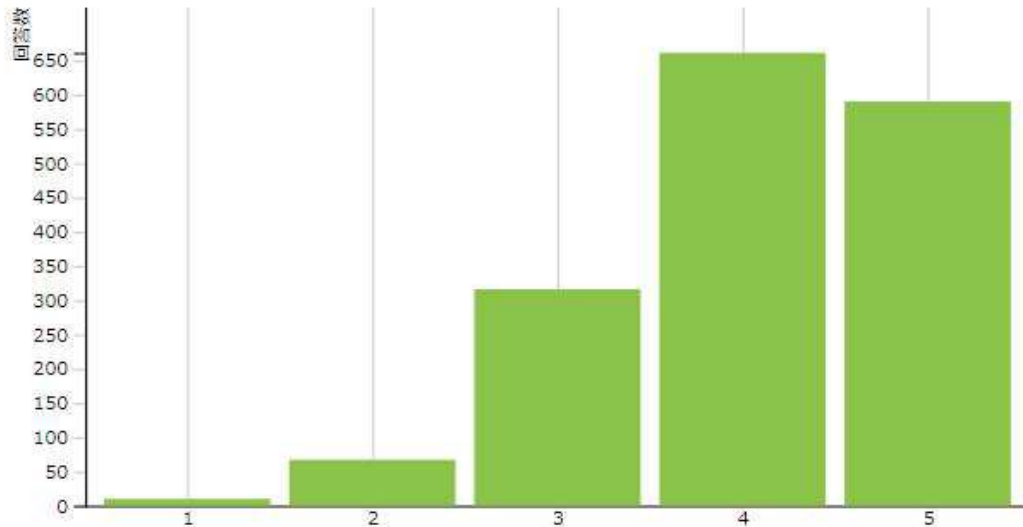
低 努力していない



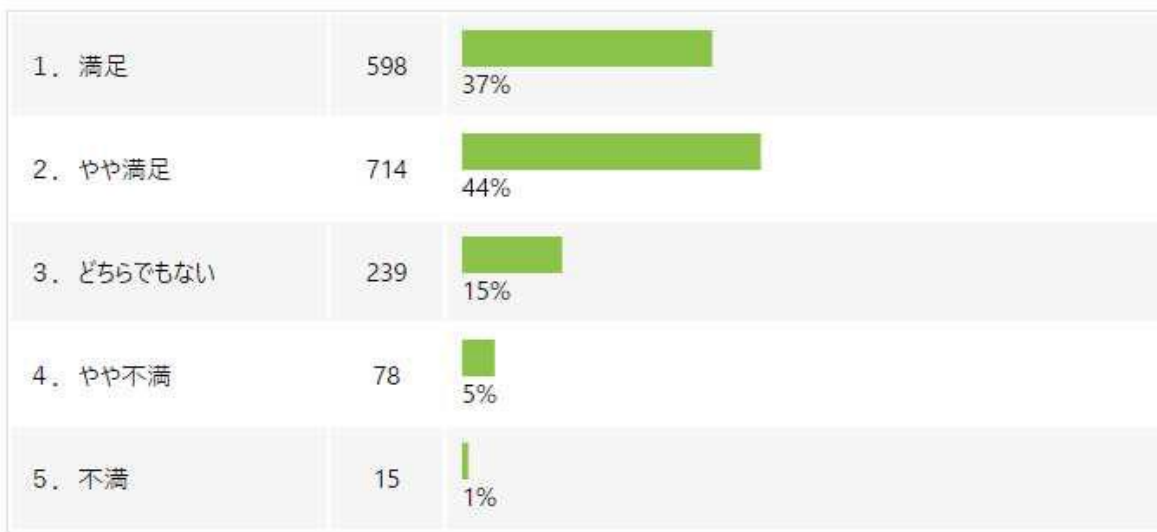
⑤ 他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人

高 能力を備えている

低 能力を備えていない



質問 2. 自分の所属学科のカリキュラム（科目や科目の配置、科目の量）に満足していますか。



質問3.カリキュラムに対して要望はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 基礎教育科目へのS TEAM科目（科学/技 術/工学/芸術/数学） の充実	233	15%
2. ICT・数理・データサ イエンス科目の充実	124	8%
3. 基礎教育科目への語 学教育科目の充実	176	11%
4. 短期留学を含む国際 交流科目の充実	163	10%
5. キャリア教育科目の充 実	164	10%
6. 能動的学修授業（ア クティブラーニング）の充実	119	8%
7. 学外活動（ボランティ ア等）単位認定	404	25%
8. インターンシップの単位 認定、科目設定	174	11%
9. 資格試験対策の充実	695	43%
10. リメディアル教育 （不足している基礎学力を 補うために行われる教育） の充実	260	16%

質問4 授業に対して、どのような態度で取り組んでいますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 受講の際に、前もってシラバスを確認している	544	34%
2. 興味がわかどうかにかかわらず、集中して受講している	770	47%
3. グループワークやディスカッションなど自分の意見を述べる機会がある場合は、積極的に発言している	402	25%
4. 出された課題やレポートを、良いものに仕上げようと努力している	959	59%
5. 予習をしたうえで毎回の授業に臨んでいる	87	6%
6. 授業が終わったらそのつど復習している	248	16%
7. 授業でわからなかったことは、自分で調べてみる	684	42%
8. 授業で興味をもったことについて、自主的に勉強する	347	22%
9. 授業に関する事柄を、授業時間外でも教員に質問する	177	11%
10. 上記にあてはまるものはない	46	3%

質問5. 授業の受講時間※は、1週間（7日間）でどれくらいですか。

※単位化された全ての授業。講義、演習、実験、卒業研究、実習、学外実習等の正課授業



質問6. 授業時間以外でのふだんの自己学習時間は、1週間（7日間）でどれくらいですか。（定期試験用の自己学習ではなく、ふだんの自己学習についてお答えください。）



質問 7. 自分が睡眠時間以外でアルバイト・部活・趣味・休養等の学業以外に自由に使うことができる時間は、1 週間（7 日間）でどれくらいですか。

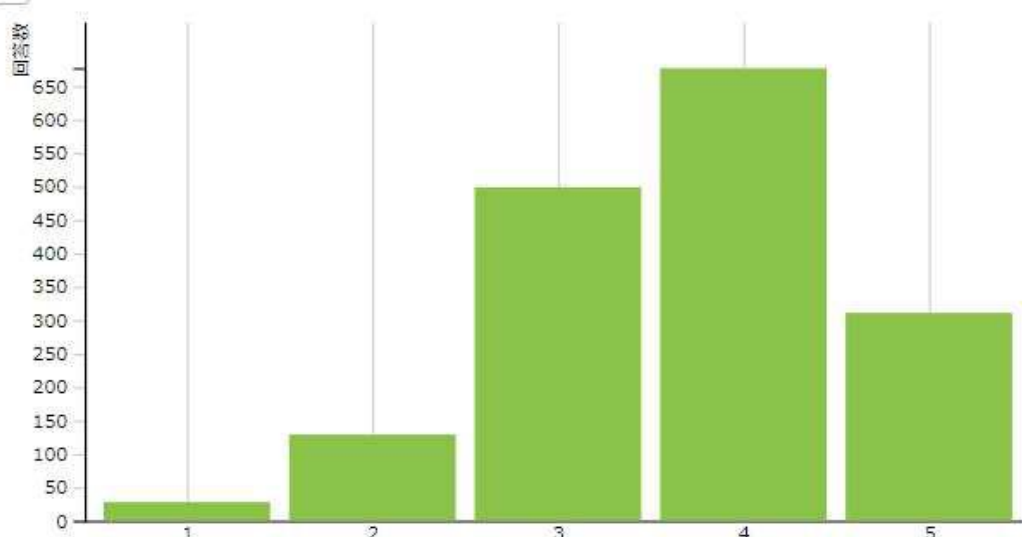


質問 8. 大学が養成しようとする人材像（ディプロマポリシー）は以下のとおりですが、現時点での自身の達成状況について5段階で自己評価してください。

① 幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。

高 達成できている

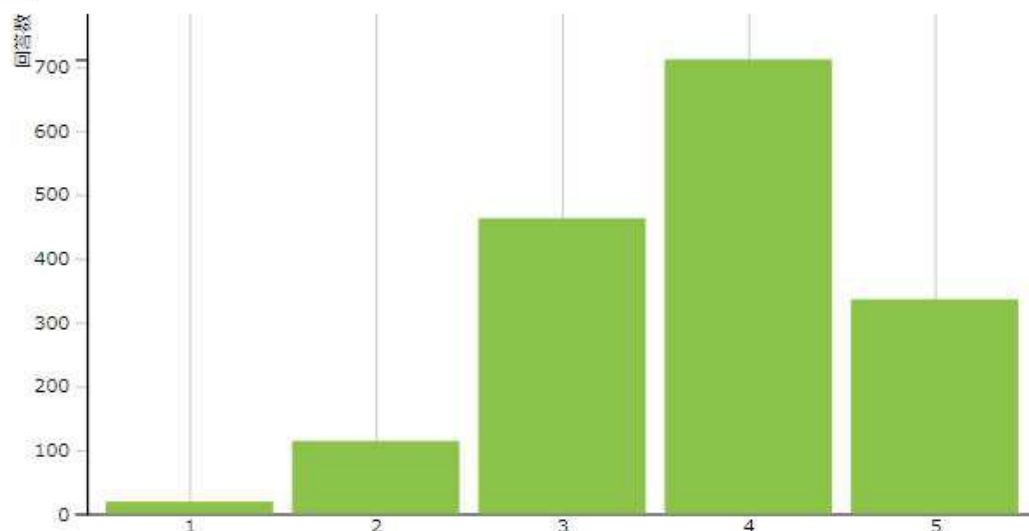
低 達成できていない



② 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につける。

高 達成できている

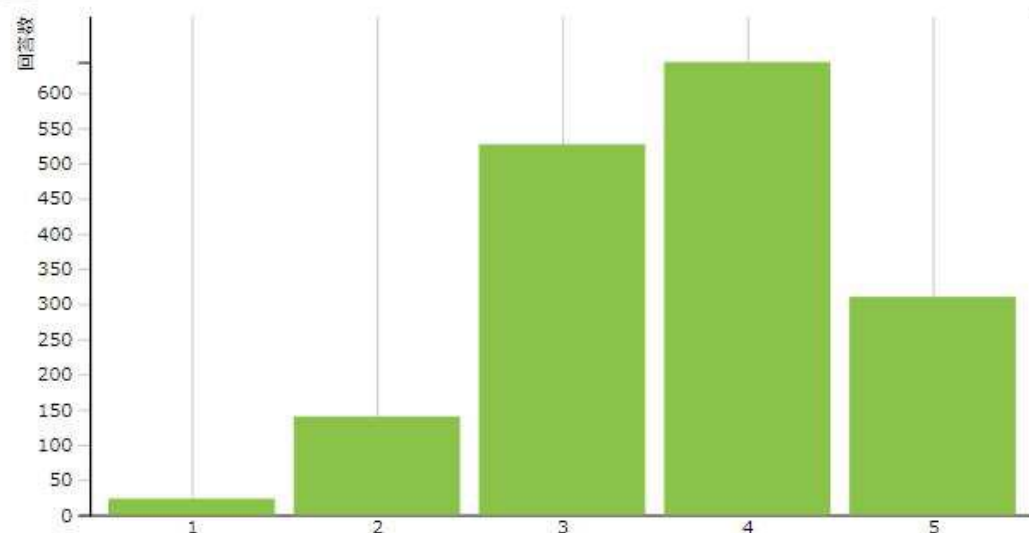
低 達成できていない



③ 医療福祉という総合的な視点を持ち、学際的に議論する力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療と福祉の両分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。

高 達成できている

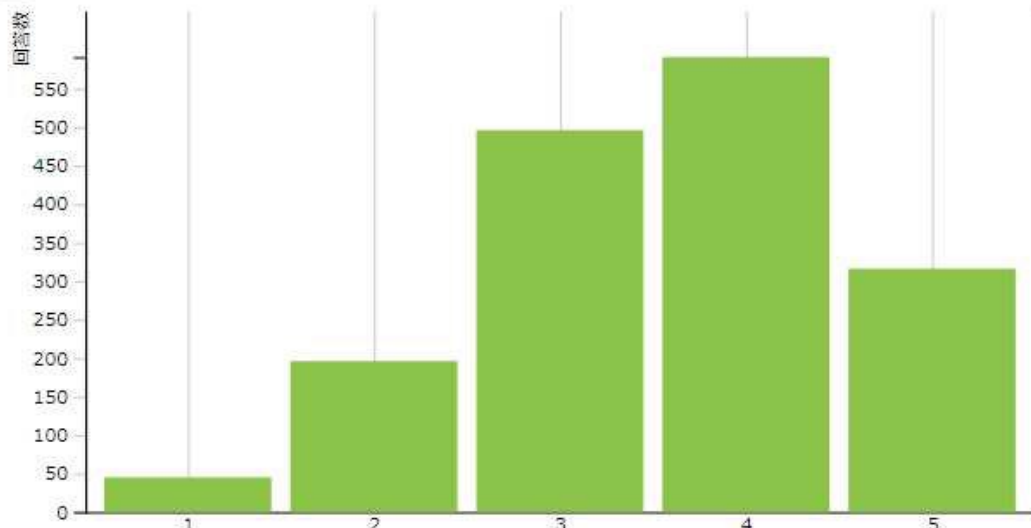
低 達成できていない



④ 4年間にわたる体系的な学習を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。

高 達成できている

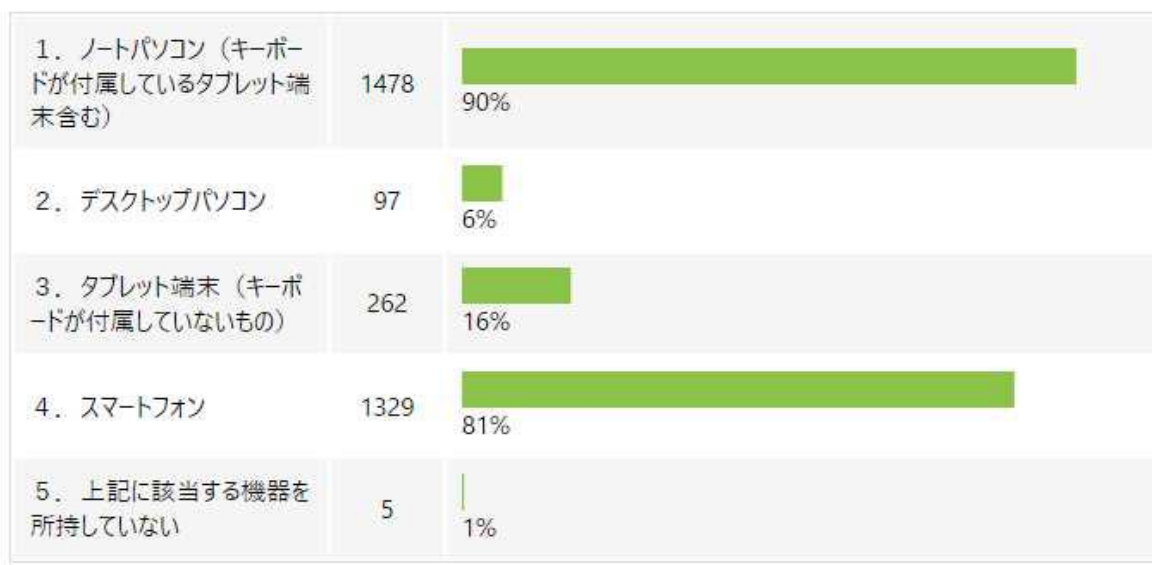
低 達成できていない



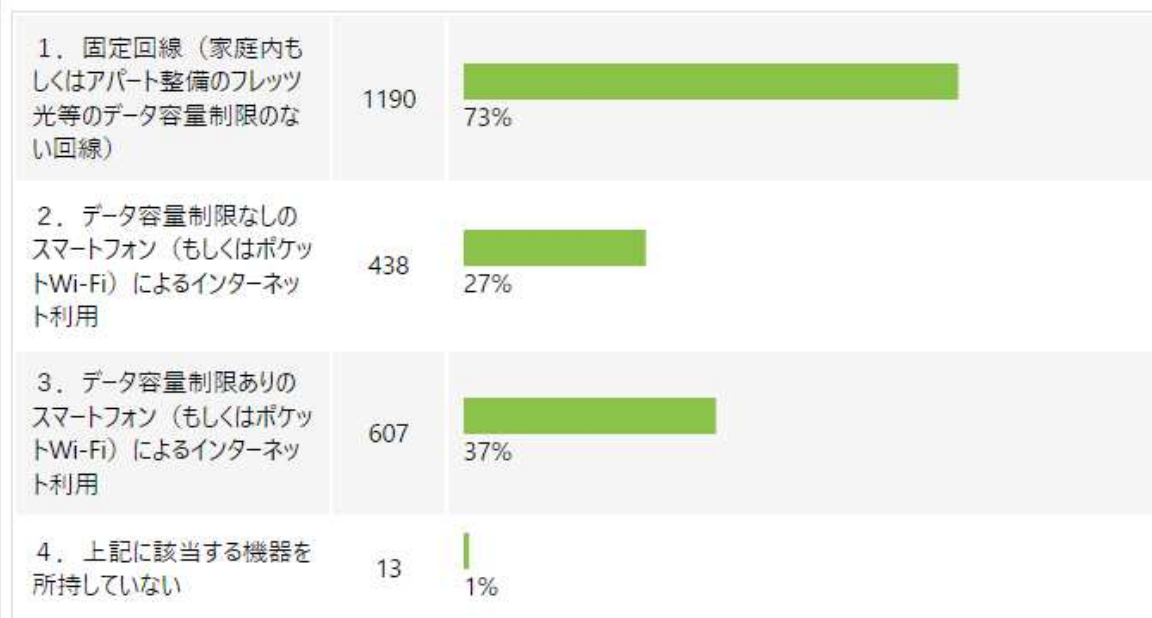
質問9. 授業時間以外での自己学習は、どこでしますか。該当する場所すべてを選択してください。

1. 自宅	1512	92%
2. 大学図書館	663	41%
3. 各階ラウンジ	606	37%
4. 5 F L S C (ラーニングサポートセンター)	139	9%
5. 8 F 資格対策演習室 (8101~8104)	21	2%
6. 学科教員が準備した自習用の講義室・実習室	162	10%
7. その他 (友人宅・公共施設など)	250	16%
8. 授業時間以外の勉強はしていない	17	2%

質問 10. 学習に使用できる自分専用のパソコン等の電子機器を所持していますか。
所持している機器すべてを選択してください。



質問11. 学習に使用できるインターネット接続環境が有りますか。該当するものすべてを選択してください。（大学に通うために一人暮らしをしている場合は、実家の環境ではなく、一人暮らしをしている家での状況を回答してください。）



質問12. 大学の学習環境整備への要望はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 静かに学習できるスペースの拡充	872	54%
2. 現在よりも遅い時間まで自習で使用することができるスペースの整備	503	31%
3. グループワークを可能とする設備（プロジェクター、ホワイトボード、移動可能机等）を備えた自習スペース	217	14%
4. 学生ラウンジ等のリラクゼーションスペースの拡充	631	39%
5. コーヒーショップ等のカフェスペース	761	47%
6. 電子機器の充電スペース	742	46%
7. パソコンやプリンターなどが自由に利用できるスペース	735	45%
8. 学生による展示スペース	29	2%
9. その他	76	5%